

# マネージメント情報

2014年4月



*TotalHerdManagementService*

この記事は、機関誌や日常の出来事の中からわれわれが注目した話題を皆様に提供するものです。  
ご質問、ご要望などなんでもお寄せくだされば、今後テーマとして取り上げたいと思います。

## マネージメント情報 2014年 4月

3月29日に北海道に帰ってまいりました。不在の間、ご心配ご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。下半身には照射による、あざのようなものが残っているのと若干の違和感が多少残っているものの、いたって元気です。重ねて、お詫びとお礼を申し上げます。

ウイコンシン大学マジソンのDr.G Oetzel 獣医学教授が Professional Dairy Producers of Wisconsin (PDPW) で講演したものです。

### 分娩牛の病気を見つけるための5つの秘訣 (5 tips)

#### 1) フレッシュ牛ペンにおける十分なヘッドロックスタンションの供給

ヘッドロックスタンションは「分娩後の牛の健康を管理する上で、絶対になければならない施設です」。これらの群において、飼槽スペースは、一頭当たり30インチ(76cm)必要ですが、ほとんどの農場のヘッドロックスタンションは24インチ(60cm)となっています。従って、この76cm/頭を確保するためには、80%の牛を入れて満杯であることを意味しています。

この重要な時期を飼養するペンに、ヘッドロックスタンションがないことは、牛と人両方に強いストレスを与えることとなります。

また、ほかの施設(たとえば、パルペーションレーン(直検レーン)、個別のシュートなど)では、獣医師らが呼吸や心拍数を測定するために、フルに接近することを困難にします。

もし、あなたがこのヘッドロックスタンションではなく、個別シュートにフレッシュ牛を移動させるとすると、その過程のなかで、貴方は牛と人にペナルティーを支払うことになるでしょう。

#### 2) その日の最初の搾乳時にフレッシュな餌を供給すること

その日の最初の搾乳と、フレッシュなTMRの飼槽への供給がシンクロナイズ(同調)することを強く推奨する。そして、これは持続的でなければなりません。「パーラーの故障、ミキサーの故障によって一度でもこの同調性がくずれたら、貴方は牛の健康とパフォーマンスにおいてツケを支払うことになります」このタイミングが食欲というものに対して極めて重要である。また、この食欲こそ病気の牛を見つけるキーになるものです。

### 3) 飼槽を見る

パーラーから最後のフレッシュ牛が戻った5～10分後に、そのペンの前を歩いてみる。そして各牛によってできた食べた後（Hole）に特別な注意を払います。これはどうあなたが食欲をモニターするかということです。もしフレッシュ牛が餌にタッチしたあとがないようであれば、それは食欲がオフになっているサインとなります。

### 4) 飼槽を超えて観察する

トレーニングされた目というのは、個々の牛の観察を通して病気のサインをピックアップさせます。貴方の雇用人の中から、こうしたスキルを持った人間の養育と同時にそのスキルに見合った報酬の支払いが必要です。全体的な姿勢（attitude）一目、耳、スタンスあるいは慣習的行動の変化が病気のインディケーター（指標）になります。搾乳後の横臥に変わる行動などは彼女（その牛）を検査する理由となります。

### 5) 後姿をチェックする

牛を前から見た後は、彼女らの後ろに回ります。そこからは、陰部からの粘液物や糞の一貫性を観察することができます。いくつかの農場では、直腸手袋によって陰部の悪露の検査をしているところがありますが、中止すべきです。それらは往々にして、ばい菌を子宮に押し込んでいる結果になっていて、分娩後の回復に対してダメージを与えているようです。

「私たちは実際にこうした農場におけるフレッシュ牛の直腸手袋を利用した膣検査（直接膣に手を入れる検査）にほとんど価値がないことを発見しました」

ごく当たり前のことではありますが、分娩牛（フレッシュ牛）の扱いをどれだけ丁寧に行えるか、あるいは行うことが利益につながるのか Oetzel 先生は強調しています。彼の文章のなかでは「have penalized」＝「ペナルティーを課せられる」という表現が何度かでてきます。やるべきことをしないことは、どんなときにも高くつくということでしょう。

今一度、自分の農場のフレッシュ牛の管理体制と飼養環境をチェックしてみてはいかがでしょうか？ 乾乳牛とフレッシュ牛の管理が農場の利益に最も直接的につながっています。



車を運転し、日本を縦断してかえって来ました。  
九州や関西から輸送される牛の大変さがよくわかりました。

行程は以下の通りでした。

指宿～鹿児島	指宿スカイライン	40 km
鹿児島～下関	九州自動車道	356 km
下関～中国吹田 (大阪)	山陽自動車道	516 km
中国吹田～米原	名神高速道	102 km
米原～新潟	北陸自動車道	476 km
新潟～郡山	磐越自動車道	150 km
郡山～安代 (青森)	東北自動車道	350 km
安代～八戸	八戸自動車道	65 km
八戸～苫小牧	フェリー	0 km
苫小牧～足寄	道央・道東自動車道	221 km
足寄～別海中標津	国道241・243号 道道 13号	130 km

実走2400 km の旅でした。



奥さんと二人での、泊まる当てもない3泊4日の旅でした。

途中、姫路城と彦根城を見学しました。奥さんは、お城よりお土産屋さんが大好きです。しかも、入ったお店では必ず何かを買うという習性があるようで、こまごまとしたものや、お菓子などを丹念に見て回るので、それを待つ時間が私には運転以上に大変でした。あと、奥さんは大変な暴走族だということも判明しました。

まえから、運転が乱暴なのは分かっていたましたが高速道路にはいると俄かに本性をむき出して走ります。後ろに車が付かれると、さらにそのスピードが上がっています。本人はそれに気づいていないようなので、途中何度も注意しましたが、5分もすると再び120 kmくらいは普通に出していたようで、隣で私は一睡もできない状態でした。(もっとも彼女に言わせれば十分酈をかいて寝ていたということですが・・・) しかも、この暴走族は、直進はめっぽう強く速いくせに、バックとか小道を曲がるのがうまくできないのです。それで宿泊のために知らぬ街に入ると、高速運転以上の恐怖を味わうことになります。従って、旅の後半は、高速道路に入るまでと降りるときにはあらかじめ私が運転することになりました。ともあれ、無事故無違反で根室に到着できました。鹿児島は暖かいのですが、黄砂とPM2.5さらには、桜島の火山灰などで空気がいがらっぽく、おいしくありません。また、常に空気がかすんでいます。(この時期は特にそのようですが・・・) 苫小牧について、港で吸った空気は明らかにおいしいもので、空気にも味のあることを強く感じました。不在の間、いろいろとありがとうございました。また、農場でお会いできるのを楽しみにしています。

## マネージメント情報

### ※ と場卵巢×ホル♀精液 IVF 体外受精卵作出について

今月から隔週でと場卵巢×ホル♀精液の体外受精卵を作っています。

お客さん(Y 農場)の希望で牛群のホル判別精液(最近は分離精液という方が一般的)を成牛に積極的に使いたいということで、同じ精液で体外受精をしてできた受精卵を、同期化をして授精(プログラム授精、例としてCPC)後7日目に追い移植をするという手法でおこないます。

と場卵巢での体外受精ですので、この受精卵で妊娠して生まれた子牛は登録はとれません人工授精で妊娠して生まれた子牛でしたら登録は可能です。

Y農場さんの場合には、子牛が生まれたらDNA検査を実施して母親を確定することになっていきます。Y農場さんの場合は市場で購入しても、遺伝的なことは殆ど考慮しないで売買されてくるのだし、体外受精卵の精液は新しい種雄牛を使うわけだから登録がとれなくてもかまわないという考えで今回の取り組みに至りました。

私なりに昨今の登録の意味を考えると無登録でもホル♀はホル♀ですし、それで乳価が決まるわけでもないですので、今回の取り組みには期待しています。

ホル♀体外受精卵の料金は1卵…¥10,000(税別)になります。

今回の精液はキングスラムソン ドミンゴ ET (507H8361)を使用しています。

現在の予定では、ホル♀の新鮮卵を供給できる日にちは以下のとおりです。

4/17-18

5/1-2

この後はゴールデンウィークに入ってしまうので、日程はまだ確定していませんが興味のある方はご一報下さい。

もう一つ、今週からしばらくの間、毎週木曜日にもと場から卵巢を搬入しF1の体外受精卵を作ります。火・木・金の週3日の作業になり、より良質な体外受精卵(新鮮卵)の提供が可能になります。しばらくの間、精液はこれから市場性に期待ができるHK187(勝早桜5)を中心に使っていく予定です。

.....

- ・今月から新人獣医師の茅野獣医師がわれわれの仲間に加わりました。小型ですがしっかりと自分自身の考え方を持った好青年です  
皆様の期待に忘れられる獣医師に成長することができますように、今までの新人同様にみなさまの厳しくも暖かい対応をお願いいたします。

- ・先月の彼岸荒れの雪も解け、別海もようやく春めいてきました。彼岸荒れの猛吹雪の日は当社の獣医師が2組(富岡・位谷組と菅原・実習生組)事務所に戻ってくることができずに、顧客ではない酪農家さんに一晩泊めていただきました。それぞれに夕方の搾乳のお手伝い(牛遡いとエサ押し)をして、その夜はお風呂に入れていただき、ビール付きの夕食までいただいたと聞いています。それぞれの獣医師が次の日に無事に事務所に戻って来た時には、お世話になりました酪農家さんにただただ感謝の気持ちでした。  
この場を借りまして改めてお礼申し上げます。



## マネージメント情報 2014年4月

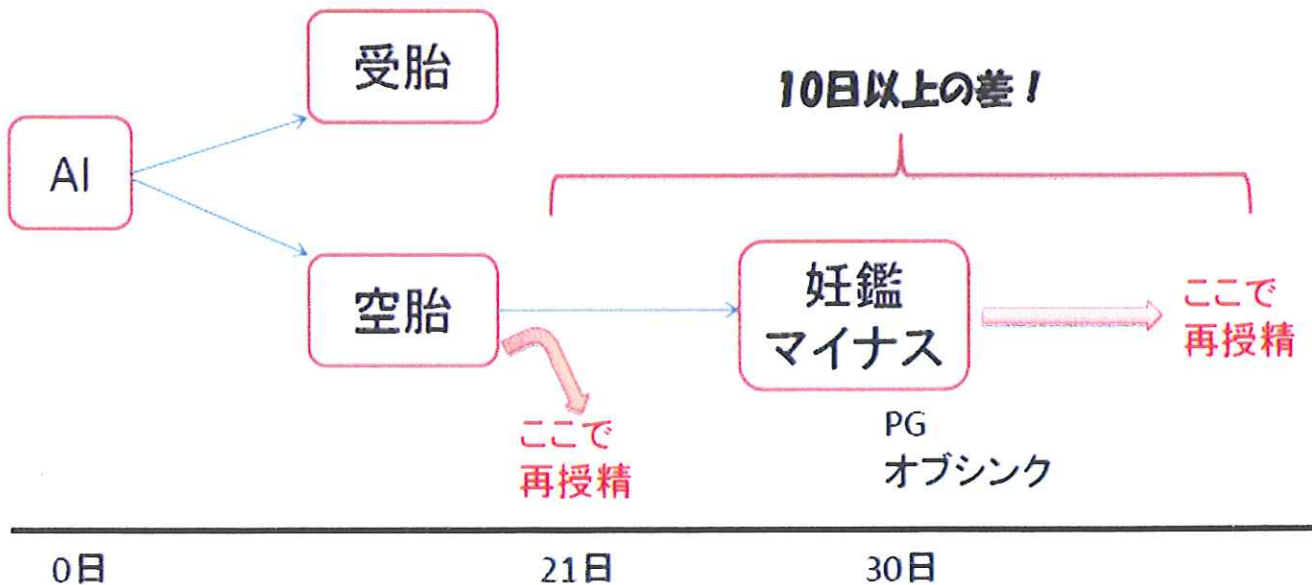
### ～ 再発情注意報 ～

#### ● 現在の牧場の受胎率は？

様々な繁殖の情報通信や勉強会などで言われているように多くの牧場での受胎率は年々低下傾向にあります。現在、多くの牧場における受胎率は30~40%くらいでしょう。

#### ● 一度授精した牛こそ発情を見つけるチャンス

受胎率が30~40%ということは強引に言い換えると3頭授精すれば2頭が不受胎で1周期後(21日前後)に再発情がくるといことです。再発がくる確率の方が高いと言えます。授精をしたからといって繁殖検診で妊娠鑑定になるまで待たず、積極的に周期を追って自然発情を見つけましょう。妊娠鑑定ができるのは30日くらいから。そこで妊鑑マイナスの牛がホルモン処置をして授精するのに最短でも数日かかります。再発を見つけていれば再授精の間隔を10日以上短縮できますし、発情発見率の上昇と空胎日数の低下につながるでしょう。特に発情発見率が低い(50%以下)牧場の場合、まずは再発を追うことから始めてみてはいかがでしょうか。

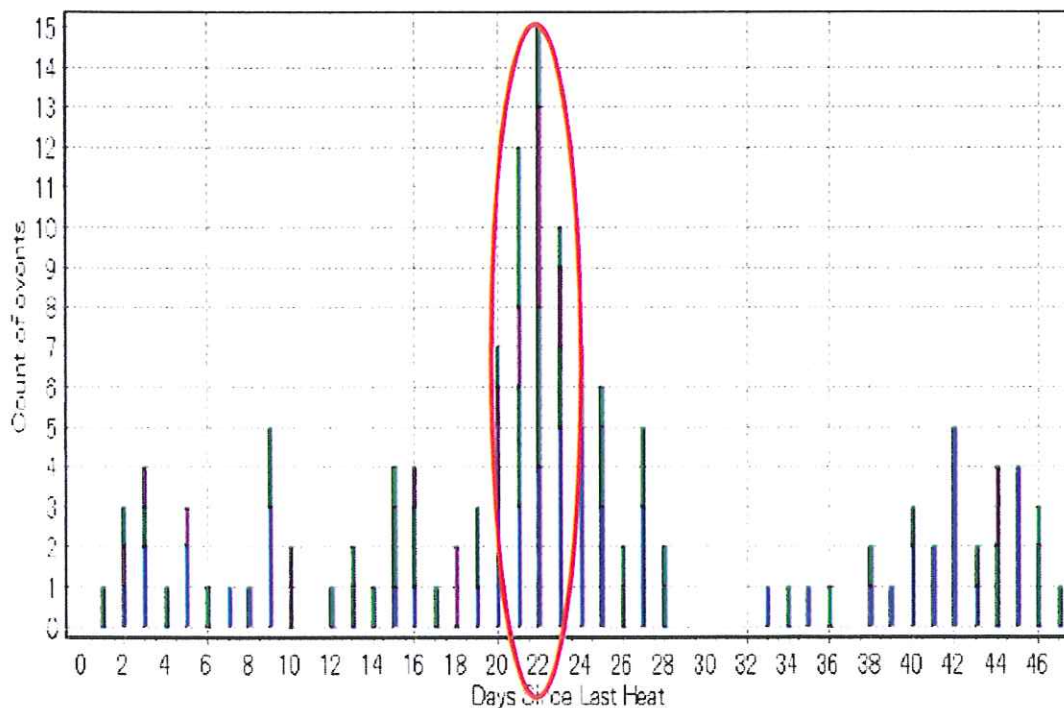
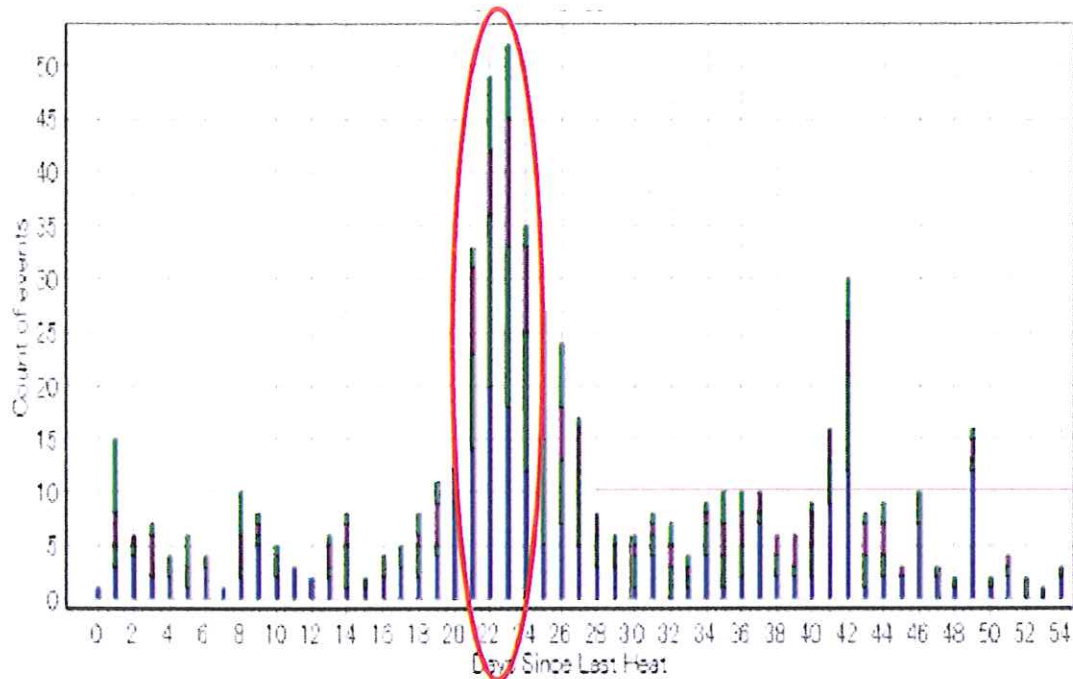


## 蛇足

### ● 遅れつつある発情周期

そうは言いつつも実は一般的な発情周期（19~24日）で発情がきている牛というのは全体の6割くらいと言われています。また牛の発情周期と言われると21日と答えますが、この21日も徐々に遅れ気味で、22~23日を中心に発情サイクルを繰り返す傾向にあるようです。

下記グラフは発情発見の優秀な2つの農場の一度授精してから再授精した日数の頭数をグラフにしたものですが、21日よりやや遅れていることが見て取れます。



皆様はじめまして、こんにちは。

4月より(株)トータル・ハード・マネジメント・サービス(以下 THMS)の獣医師として入社いたしました茅野大志(かやの たいし)と申します。さっそくですがこの場をお借りして、簡単に自己紹介をさせていただきます。

去る3月末に、江別市にある酪農学園大学を卒業しました。

出身は温泉くらいか思い浮かばない九州は大分県の西部に位置する、竹田市久住町という小さな山間の町です。別海町とはまた違ったタイプの田舎(失礼!)で、自宅から最寄りコンビニまで車で30分という環境で高校まで過ごしました(となりのトロに出てくるような山村をイメージしていただけたら)。

THMSの名前はバックパックで一人旅をしていたインドの長距離バスの中で、偶然隣に座っていた日本人から初めて聞きました(実はある農家さんのご家族なのですが…)。その後、大学で佐竹先生の「産業動物に従事している獣医師」などというタイトル(うろ覚え)の講演を聞く機会があり、さらに現在は壱岐のほうで獣医師をしておられる阿部先生から蹄病などの講義を受けました。三度も名前を耳にすれば不思議な縁を感じずにはおられず、就職活動の一環として実際に THMS を訪れ実習させていただきました。そこで黒崎社長をはじめとする社員の皆さんの仕事に対する熱意と情熱に一瞬で心を打たれ、入社を希望しました。幸運にも(!?)採用させていただき、今年度より THMS で働くことになりました。

おこがましいかもしれませんが、私は酪農家の皆様と一緒に頭を悩ませ、時に笑い、時に涙できるような、そんな獣医師になれたらと思っています。まだまだ何もわからないことだらけの若輩者ではございますが、一日も早く皆様の信頼を得て、THMSの一員であると認めもらえるよう日々精進してまいります。いろいろとご迷惑をおかけすることもあるとは思いますが、どうか厳しくもあたたかいご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

モウ～烈に  
頑張ります!!



2014. 4. 7  
茅野 大志  
(かやの たいし)